

令和4年度 第2回地域家庭教育推進会津ブロック会議

1 開催日 令和5年1月18日(水) 13:20~16:00

2 会場 会津若松ワシントンホテル 双鶴

3 出席者 (敬称略)

鶴見 常夫	総務省福島行政監視行政相談センター行政相談委員
山口謙太郎	耶麻地区小中学校PTA連絡協議会会長
鈴木 真理	学校保健会北会津支部養護教諭部会長
秋山 理恵	秋山ユアビス建設執行役員新事業推進室室長
遠藤由美子	会津若松市生涯学習総合センター主任主査
春日 謙伸	会津坂下町教育委員会教育課生涯学習班社会教育係長
花積めぐみ	会津保健福祉事務所保健福祉課専門保健技師
宮盛 達雄	喜多方市岩月公民館社会教育指導員
	会津地区社会教育指導員連絡協議会会長
増子 恵二	福島県家庭教育インストラクター会津さざなみの会会長
田中 明子	あいづCAP代表
※(事務局)	会津教育事務所 5名

4 開催趣旨

この会議は、会津地域の家庭教育の現状と課題を把握し、課題解決に向けた実践活動を推進するため、各郡市PTA連合会・学校代表・企業代表・地域代表による協議を行うものです。

令和3年度から、「家庭教育における不登校支援」をテーマに協議し、3年次計画で「親子、家族相互の関わり方や家庭への支援の在り方」を域内に広く発信し啓発していきます。今年度は、2年次として、「家庭教育リーフレット」を作成してきました。

5 内 容

○今年度の取組、成果等について報告

〈事務局から〉

1回目のブロック会議を受け、会津教育事務所が関わる各事業も、それに沿った内容で実施した。

(主な取組)

- 親子の学び応援講座
喜多方市立第一小学校 講師：けやき心の発達診療所(精神科医) 所長 角田 智哉 氏
湯川村立湯川中学校 講師：会津短期大学 産業情報学科 教授 中澤 真 氏
- 家庭教育地区別研修会
講演「すべての子に安心・自信・自由を」
講師：あいづCAP 田中 明子 氏、芳賀 茂美 氏、小野 美喜子 氏
- 家庭教育支援者全県研修(オンデマンド研修)
- 福島県家庭教育支援チーム登録制度(本年度登録なし)
- 家庭教育応援企業推進活動(3社登録)
活動報告：株式会社 弓田建設、(株)金堀重機

〈「家庭教育における不登校支援」3年次計画の中間報告〉

不登校児童生徒の増加に関する新聞記事やデータ、年次計画、令和3・4年度の取り組みに関する資料を配付した。

【協 議】

(1) グループ協議

<A 班>



【リーフレット】

- ・ QRコードを読み取ると会津教育事務所HPを経由することになるので、指定のページに進めるようにしてほしい。
- ・ 支援の表現を強調 「一人で悩まないで」「誰にでも起こる可能性」太字で記入する。
- ・ 「我が子」という表現を「子ども」にした方が良い。
- ・ 「普段の親子関係について」の次に「子どもが学校へ行きたくないと言った時の対応について」の記載があるが、先に「対応」について記載した方が良い。
- ・ 「子どもが学校へ行きたくないと言った時の対応について」の中で、「㊟待つことの大切さ」を筆頭にされた方が良い。
- ・ 未就学児がいる親にも不登校の情報提供をするためにリーフレットを活用できると良い。

【ホームページ版】

- ・ 当事者の声などの体験談も記載すると良い。
- ・ 「ポイント」の中で「お風呂に入る」という記載もあるが、年齢的に厳しいケースもあるので、発達段階に応じてなどを記載するとよい。
- ・ 「～させましょう」の文言に強制感を感じるため、柔らかい文言を使用すると良い。また、「～しましょう」よりは、「～する」といった提案型の表現の方が良い。

<B 班>



【リーフレット】

- ・ 文言を柔らかくした方が良い。(ひらがな)
- ・ 不登校の具体例(昼夜逆転やネット依存等)があった方が良い。
- ・ 相談先の表現について、相談の順番はケース毎に異なるため定める必要がないと思う。
- ・ 学校に相談しにくい話もあるため、他の相談先も記載すると良い。
- ・ 学校の相談先の中で、「部活動の顧問の先生」も追記した方が良い。

- ・リーフレットは見るがホームページを見ない人もいるため、簡単な連絡先はリーフレットに入れた方がよい。
- ・連絡先一覧の輪の意味の説明を加える。
- ・「褒めることで自己肯定感を高める」の文言の中でできたことを褒めるのではなく、その過程を大切にするようにした方がよい。
- ・SSWの活用が書かれているが、あまり活用されていないのではないか。
- ・不登校数の変容について、全国・県に加えて会津地区の数値も入れられないか。

【ホームページ版】

- ・事例（復帰）を追記した方がよい。（親が知りたい例）
- ・ケース毎（自分のケースに当てはまる）に相談先を記載するのがよい。
- ・文末の表現を統一した方がよい。
- ・「積極的に相談する」と記載があるが、各団体との接点を作る方法も記載するとよい。
- ・エールを送る文言を最後に入れたい。

(2) 協議のまとめ（委員長 鶴見 常夫）

【リーフレット】

- ・柔らかい文言を使用する方がよい。「御覧ください」→「ご覧ください」のように、ひらがなを使用した方がよい。（字体も丸ゴシックを使うなど）
- ・「一人で悩まないで」等のキャッチコピーがあると良い。
- ・QRコードを読み取ればすぐに指定のホームページに進むようにしてほしい。
- ・不登校の具体例があっても良いと思う。
- ・「我が子」ではなく「子ども」という表現を使用した方がよい。
- ・学校以外の相談先も記載すると良い。
- ・リーフレットを未就学児の親にも配付できると良い。



【ホームページ版】

- ・文末の表現「～させましょう」を「～してみませんか」の提案型の表現に変えた方がよい。
- ・相談先として「学校」を最初に記載すると、拒絶反応を示す人がいる可能性もある。学校以外の相談先も記載すると良い。学校以外との接点を作る工夫が必要である。
- ・不登校にも様々なパターンがあるため、保護者目線で記載してもらえると良い。

【まとめ】 ○成果 ●課題

〈成 果〉

- 学校、PTA、行政、家庭教育支援チーム、企業の方々からの様々な意見や提案を聞くことができ、家庭教育リーフレット作りの参考になった。
- 家庭教育リーフレット作りを通しながら、参加された様々な立場の方に不登校支援を深く考えていただくことができた。

〈課 題〉

- 様々な意見を取り入れて、家庭教育リーフレット完成させていく必要があるが、情報量が膨大となってくるため精査しながら進めていきたい。